情報公開文書　（単施設用）

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	22164
課題名	非心臓手術における術中低血圧に関わるリスク因子の検討
研究期間	実施許可日　～　2028 年 4 月 1 日
研究の対象	2023 年以降に当院で非心臓手術を受けられた患者さんのうち麻酔中の循環モニターとしてフロートラックセンサーを用いた症例
利用する試料・情報の種類	☑診療情報（詳細：術中低血圧時間、麻酔法、昇圧薬の投与法、年齢、性別、身長、体重、BMI、ASA-PS、術前血圧、心収縮能、術式、緊急手術、麻酔時間、出血量、輸血量、輸液量、尿量、術後 30 日の生存死亡、急性腎障害等） ☐手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：　　） ☐血液 ☐その他（　　）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学　学長　西川　祐司
研究の意義、目的	麻酔をすると血管拡張と心収縮力低下によって血圧が下がりやすくなります。血圧の低下は全身臓器の血流低下につながる危険な状態ですが、麻酔中は体調不良を訴えられません。そこで麻酔科医は昔から麻酔中に血圧を測定してきましたが、明確な低血圧の定義は存在していませんでした。近年、様々な生体情報データがコンピューターに保存できるようになった結果、ビッグデータの解析によって平均血圧 65mmHg 以下の時間と術後死亡率や心腎脳合併症に関りがあることが明らかにされました。ところが、通常の麻酔法で平均血圧 65mmHg 以上を維持し続けることは難しいため解決策が模索されてきました。解決策の一つとして血圧低下に関わるリスク因子を調べた先行研究があり、リスク因子として緊急手術、高齢、術前低血圧、心機能低下など報告されていますが、介入できるものはありませんでした。そこで、本研究の目的は同様に術中低血圧に関わるリスク因子を調べますが、麻酔法や昇圧薬の投与法といった介入可能な因子に焦点を当て、血圧を下げない麻酔管理に役立てることを期待しています。
研究の方法	フロートラックセンサーに保存された術中血圧などの生体情報データ、電子診療録から術前・術中情報データを抽出します。統計的手法を用いて術中低血圧と術前・術中情報データとの関連を調べリスク因子と判断します。
その他	本研究は企業や団体との関りはなく物資・資金等の提供は受けておりません。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

	また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 　研究責任者 　　旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座　鷹架 健一 　　住所：北海道旭川市緑が丘東２条１丁目１番１号 　　電話：0166-68-2583